

■ミヨー／バレエ音楽《世界の創造》Op.81

ダリウス・ミヨー（1892-1974）はドビュッシーやラヴェルを受け継いだ世代のフランスの作曲家で、第1次世界大戦後に結成された「フランス六人組」の中核的なメンバーのひとりだった。サティやストラヴィンスキーに影響を受けた彼の音楽はときに陽気で諧謔味を帯び、抒情的なメロディが美しい。

《世界の創造》は1923年、スウェーデン・バレエ団の委嘱に応じて作曲された。アメリカ人の見た天地創造というテーマで、アメリカ滞在中に聴いて衝撃を受けたジャズの要素を大胆に取り入れている。ジャズが酒場の音楽というイメージをかきたてたせいで、初演は批評家からたたかれたという。だが、大衆音楽のエネルギーを芸術音楽に吸収したミヨーのセンスは冴えている。ゆたかなパレットの中から選ばれた音色が駆使され、複調の響きやジャズのリズムなど、個々のセクションがどこまでも明朗かつ強烈に特徴づけられていく。性格の異なる楽想の切りかえも鮮やかだ。

白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。